

復興整備計画  
（第2回変更）

大槌町・岩手県

平成25年7月30日

## 1 復興整備計画の区域（計画区域）（法第46条第2項第1号関係）

大槌町の一部（別添の復興整備事業総括図のとおり。）

## 2 復興整備計画の目標（法第46条第2項第2号関係）

大槌町の将来像 「海の見えるつい散歩したくなるこだわりのある『美しいまち』」

### ① 安全で安心して暮らせるまち

適切な避難施設の配置や災害情報発信の高度化等を図り、高齢者や障がい者、漁業従事者、観光客などを含むすべての町民や来訪者が津波から生命を守ることができ、災害時には地域が助け合う安全で安心して暮らせるまちづくりを目指す。

### ② 地域で町民が寄り添い支え合うコンパクトなまち

市街地の拡散を防ぎ、地域の活力の根本である生活文化や地域のコミュニティを尊重し、町民が寄り添い、互いに支え合う暮らしができるコンパクトなまちを目指す。

### ③ 多様な交流と連携で産業が興る活力あるまち

産業業務施設の早期再建の場となる拠点エリアを整備するとともに、大槌町ならではの魅力ある地域資源を活かし、多様な交流・連携を促進し、新規事業が創出され産業が興る、活力あるまちを目指す。

### ④ 豊かな自然環境や景観形成に配慮した美しいまち

リアス式海岸特有の海と山に囲まれた大槌町ならではの自然環境を活かし、交流人口の拡大につながるような、自然と調和したこだわりのある美しいまちを目指す。

### ⑤ 地域に対する誇りや愛着を大切にすまち

住民の地域に対する誇りや愛着を大切にす、大槌町としての独自性を継承しながら、地域の歴史や文化を尊重したまちを目指す。

### ⑥ 復興を牽引する農業・農山村の振興

被災した農業の生産基盤の復旧による営農再開と農業の振興に向けた支援を行うとともに、認定農業者を含む多様な担い手による農地の利用促進、施設・機械等の導入を支援し、安全安心な農畜産物の生産と農業の6次産業化を推進する。

## 3 土地利用方針（法第46条第2項第3号関係）

### (1) 復興整備計画の区域における土地利用の基本的方向

災害に強い地域づくりの観点から、防潮堤、水門の整備とともに、土地利用を再編し、市街地を集約して嵩上げする等による市街地再生エリアや高台へ移転する住宅地について居住エリアとして整備します。移転跡地については、公園エリア、緑地エリアとしての整備を行うとともに、産業エリア、漁港関連施設エリアとして整備し、産業の再生を図ります。

① 住居系建築物の建設は、東日本大震災による津波と同程度の過去最大クラスの津波（以下「過去最大クラスの津波」という。）に対して、海岸保全施設（防潮堤・水門）の整備のほか、道路の嵩上げ、宅地の盛土など基盤整備によって浸水が想定されない区域内とします。

② 公共系建築物（災害時の避難所又は救護施設を兼ねるものに限る。）は、過去最大クラスの津波の浸水が想定されない区域への立地を推進します。

③ 業務系建築物は、その目的等に応じて、過去最大クラスの津波の浸水が想定される区域での立地を許容します。ただし、建築物の構造や避難手段の確保

など一定の条件を付すことにします。

- ④ 被災した農地は、早期に復旧を図るほか、農地の高度利用を図るため、生産施設や農業機械の導入を併せて行い、被災地周辺の農地と一体的に活用することにより、優良農地の保全に努めます。
- ⑤ 東日本大震災の地震による地盤の沈下、津波による浸水といった各種被害によって土地利用の状況が大きく変化したこと等に伴い、利用可能な土地が限定されるが、農用地、保安林等を極力回避して事業用地を選定します。

(2) 土地の用途の概要（別添の土地利用構想図及び復興整備事業総括図参照）

① 町方地区〔(1)-A, (1)-E, (4)-A, (6)-A, (6)-B〕

大槌町の歴史的な中心地である町方を、引き続き町の中心として再興するため、防潮堤、水門を整備するとともに、市街地を上町、本町、末広町、大町の一部に集約し、土地区画整理事業により嵩上げします（市街地再生エリア）。防潮堤、水門を整備しても、東日本大震災による津波の規模で浸水するエリア（須賀町、栄町、大町の一部）については、防災集団移転促進事業により小釜川右岸の住居エリア等に住居等を移転させ、その移転跡地は防災集団移転促進事業の移転促進区域として災害危険区域に指定するほか、JR山田線より北側の大槌川右岸の区域はまちの産業を担う企業や新たな産業集積の拠点となるよう産業エリアとして活用するとともに、公園エリアとして活用します。また、JR山田線より南側の区域は、公園エリア及び緑地エリアとして活用します。さらに、大槌川右岸沿いに道路を整備し、小釜川右岸においては公共下水道を整備します。

② 寺野地区〔(6)-F, (6)-G〕

当地区は、東日本大震災による津波の被害を免れた地区であり、震災により被災し、応急仮設住宅などに入居している被災者の住居の安定を図るため、都市公園である寺野公園を廃止し、そこに防災集団移転促進事業の住宅団地や災害公営住宅を整備するほか、道路、公共下水道等の公共施設の整備も進め、津波に対し安全な高台の住宅団地として整備します（住居エリア）。

③ 小枕・伸松地区〔(4)-B〕

当地区は、東日本大震災による津波により集落のほぼ全域が壊滅的な被害を受け、再び東日本大震災による津波と同程度の津波を受ければ孤立するおそれがあることから、防潮堤、水門を整備するが、同地区には住宅団地を造成せず、防災集団移転促進事業により大槌川右岸の大ケロ地区付近の安全な高台に住宅団地を整備します（住居エリア）。また、防災集団移転促進事業の移転跡地は、移転促進区域として災害危険区域に指定するほか、緑地エリア及び漁港関連施設エリアとして活用します。

④ 沢山・源水・大ケロ地区〔(6)-C, (6)-D, (6)-E〕

当地区は、東日本大震災による津浪により一部地域で甚大な被害を受けたが、大槌川及び小釜川の河口付近に防潮堤、水門を整備することにより、今回の津浪の規模が再来しても浸水しない地域になるため、道路、公共下水道を整備し、防災集団移転促進事業の住宅団地とするほか、小中一貫教育校を配置した文教ゾーンとしての整備を進めます。

⑤ 安渡地区〔(1)-B, (1)-F, (4)-C, (6)-H, (6)-I〕

当地区は、既存のコミュニティを維持しながら、防災集団移転促進事業により旧安渡小学校付近に新たに住宅団地（住居エリア）や地域の拠点となる交流施設及び避難ホール等を整備し、また、被災した安渡地区の一部を土地区画整理事業により嵩上げをして、既存住宅地と繋がりを持たせるよう、コンパクトで一体感を持った市街地を構築して（市街地再生エリア）、道路、公共下水道の公共施設等を整備しつつ、地域の中心を再編します。また、防潮堤を整備するとともに、防災集団移転促進事業の移転跡地は移転促進区域として災害危険区域に指定するほか、緑地エリア及び公園エリアとして活用するとともに、沿道サービスに寄与する事務所や水産加工施設等、まちの産業を担う企業の拠点となるよう産業エリアとして整備します。防災集団移転促進事業の移転跡地以外の沿岸部は、漁港関連施設エリアとして活用します。

⑥ 赤浜地区〔(1)-C, (4)-D, (6)-J, (6)-K〕

当地区は、整備する防潮堤は旧来の高さに留め、防災集団移転促進事業により被災しなかった地区に住宅地を形成し（住居エリア）、また、被災した地区の一部を土地区画整理事業により嵩上げをして、既存住宅地と繋がりを持たせるよう、道路、公共下水道の公共施設等を整備しつつ、コンパクトで一体感を持った市街地を構築します（市街地再生エリア）。防災集団移転促進事業の移転跡地については移転促進区域として災害危険区域に指定するほか、産

業エリア及び緑地エリアとして活用するとともに、防災集団移転促進事業の移転跡地以外の沿岸部は、漁港関連施設エリアとして活用します。

⑦ 吉里吉里地区 [(1)-D, (4)-E]

被災前のまちの中心部を残すために、防潮堤、水門を整備するほか、国道45号の内側に幹線道路（町道）を配置し、その幹線道路より西側を土地区画整理事業により嵩上げをして、商業系を含む市街地を構築します（市街地再生エリア）。また、幹線道路より東側にある住居等については、防災集団移転促進事業により吉里吉里中学校周辺及びJR山田線の北側に整備する高台の住宅団地（住居エリア）に移転します。防災集団移転促進事業の移転跡地については移転促進区域として災害危険区域に指定するほか、産業エリア、緑地エリア及び漁港関連施設エリアとして活用するとともに、防災集団移転促進事業の移転跡地以外の沿岸部は、漁港関連施設エリアとして活用します。

⑧ 浪板地区 [(4)-F, (6)-L]

被災前のまちの中心部を残すために、国道45号の内側に幹線道路（町道）を配置し、その幹線道路より西側に、商業系を含む市街地を構築します（市街地再生エリア）。また、東日本大震災による津波で被災した地区については、既存集落と一体となった住宅団地（住居エリア）を防災集団移転促進事業によりJR山田線付近に整備することで、地区の中心を山側に移動させ、安全でかつコミュニティを維持することができる集落を整備します。防災集団移転促進事業の移転跡地については移転促進区域として災害危険区域に指定するほか、道路を整備しつつ、緑地エリアとして活用するとともに、防災集団移転促進事業の移転跡地以外の沿岸部は、緑地エリアとして活用します。

(3) 復興整備事業のおおむねの区域を表示した縮尺1/25,000以上の地形図（別添の復興整備事業総括図のとおり）

**4 復興整備事業に係る事項（法第46条第2項第4号関係）**

事業区分	図面記号	事業に係る事項
(1)市街地開発事業	(1)-A	事業の名称：町方地区震災復興土地区画整理事業 事業主体：大槌町 実施区域：別添の復興整備事業総括図のとおり 実施予定期間：平成24年度～平成27年度 種類：土地区画整理事業
	(1)-B	事業の名称：安渡地区震災復興土地区画整理事業 事業主体：大槌町 実施区域：別添の復興整備事業総括図のとおり 実施予定期間：平成24年度～平成27年度 種類：土地区画整理事業
	(1)-C	事業の名称：赤浜地区震災復興土地区画整理事業 事業主体：大槌町 実施区域：別添の復興整備事業総括図のとおり 実施予定期間：平成24年度～平成27年度 種類：土地区画整理事業
	(1)-D	事業の名称：吉里吉里地区震災復興土地区画整理事業 事業主体：大槌町 実施区域：別添の復興整備事業総括図のとおり

		実施予定期間：平成24年度～平成27年度 種類：土地区画整理事業
	(1)-E	事業の名称： <u>町方地区津波復興拠点整備事業</u> 事業主体：大槌町 実施区域： <u>別添の復興整備事業総括図のとおり</u> 実施予定期間：平成25年度～平成27年度 種類： <u>津波復興拠点整備事業</u>
	(1)-F	事業の名称： <u>安渡地区津波復興拠点整備事業</u> 事業主体：大槌町 実施区域： <u>別添の復興整備事業総括図のとおり</u> 実施予定期間：平成25年度～平成27年度 種類： <u>津波復興拠点整備事業</u>
(2) 土地改良事業		
(3) 復興一体事業		
(4) 集団移転促進事業	(4)-A	事業の名称：町方地区防災集団移転促進事業 事業主体：大槌町 実施区域：別添の復興整備事業総括図のとおり 実施予定期間：平成24年度～平成27年度
	(4)-B	事業の名称：小枕・伸松地区防災集団移転促進事業 事業主体：大槌町 実施区域：別添の復興整備事業総括図のとおり 実施予定期間：平成24年度～平成27年度
	(4)-C	事業の名称：安渡地区防災集団移転促進事業 事業主体：大槌町 実施区域：別添の復興整備事業総括図のとおり 実施予定期間：平成24年度～平成27年度
	(4)-D	事業の名称：赤浜地区防災集団移転促進事業 事業主体：大槌町 実施区域：別添の復興整備事業総括図のとおり 実施予定期間：平成24年度～平成27年度
	(4)-E	事業の名称：吉里吉里地区防災集団移転促進事業 事業主体：大槌町 実施区域：別添の復興整備事業総括図のとおり 実施予定期間：平成24年度～平成27年度

	(4)-F	事業の名称：浪板地区防災集団移転促進事業 事業主体：大槌町 実施区域：別添の復興整備事業総括図のとおり 実施予定期間：平成24年度～平成27年度
(5)住宅地区改良事業		
(6)都市施設の整備に関する事業	(6)-A	事業の名称：町道新町末広町線整備事業 事業主体：大槌町 実施区域：別添の復興整備事業総括図のとおり 実施予定期間：平成24年度～平成27年度 種類：道路事業
	(6)-B	事業の名称：町方地区下水道事業 事業主体：大槌町 実施区域：別添の復興整備事業総括図のとおり 実施予定期間：平成24年度～平成27年度 種類：公共下水道事業
	(6)-C	事業の名称：都計道町方大ケ口線整備事業 事業主体：大槌町 実施区域：別添の復興整備事業総括図のとおり 実施予定期間：平成24年度～平成27年度 種類：道路事業
	(6)-D	事業の名称：都計道町方大ケ口線(仮称)大ケ口大橋整備事業 事業主体：大槌町 実施区域：別添の復興整備事業総括図のとおり 実施予定期間：平成24年度～平成27年度 種類：道路事業
	(6)-E	事業の名称：沢山・大ケ口地区下水道事業 事業主体：大槌町 実施区域：別添の復興整備事業総括図のとおり 実施予定期間：平成24年度～平成27年 種類：公共下水道事業
	(6)-F	事業の名称：町道寺野線整備事業 事業主体：大槌町 実施区域：別添の復興整備事業総括図のとおり 実施予定期間：平成24年度～平成27年度 種類：道路事業

	(6)-G	事業の名称：寺野地区下水道事業 事業主体：大槌町 実施区域：別添の復興整備事業総括図のとおり 実施予定期間：平成24年度～平成27年度 種類：公共下水道事業
	(6)-H	事業の名称：町道安渡幹線整備事業 事業主体：大槌町 実施区域：別添の復興整備事業総括図のとおり 実施予定期間：平成24年度～平成27年度 種類：道路事業
	(6)-I	事業の名称：安渡地区下水道事業 事業主体：大槌町 実施区域：別添の復興整備事業総括図のとおり 実施予定期間：平成24年度～平成27年 種類：公共下水道事業
	(6)-J	事業の名称：町道赤浜1号線整備事業 事業主体：大槌町 実施区域：別添の復興整備事業総括図のとおり 実施予定期間：平成24年度～平成27年度 種類：道路事業
	(6)-K	事業の名称：赤浜地区下水道事業 事業主体：大槌町 実施区域：別添の復興整備事業総括図のとおり 実施予定期間：平成24年度～平成27年 種類：公共下水道事業
	(6)-L	事業の名称：(仮称)町道浪板幹線整備事業 事業主体：大槌町 実施区域：別添の復興整備事業総括図のとおり 実施予定期間：平成24年度～平成27年度 種類：道路事業
(7)津波防護施設の整備に関する事業		
(8)漁港漁場整備事業		
(9)保安施設事業		
(10)液状化対策事業		
(11)造成宅地滑動崩落対策事業		

(12) 地籍調査事業		
(13) その他施設の整備に関する事業		
5 復興整備計画の期間 (法第46条第2項第5号関係)		
平成24年度～平成27年度		
6 その他復興整備事業の実施に関し必要な事項 (法第46条第2項第6号関係)		

4-① 土地利用基本計画の変更等に係る事項 (法第48条第1項関係)							
整理番号	事業区分	図面記号	変更等する土地利用基本計画等	変更等の別	変更等する部分の面積 (ha)		備考
					拡大	縮小	
1	集団移転促進事業(赤浜地区)	(4)-D	土地利用基本計画の森林地域	変更		4(3.63)	
			地域森林計画区域	変更		3.63	

- (注) 1 本様式は、復興整備事業の実施に関連して土地利用基本計画の変更等を行うときに法第46条第2項第4号に掲げる事項として記載するとともに、土地利用基本計画の変更等に係る事項の様式を添付する。
- 2 「事業区分及び図面記号」は、「4 復興整備事業に係る事項」と整合させる。
- 3 「変更等する土地利用基本計画等」は、法第48条第1項各号に規定する土地利用基本計画等の内容を記載する。
- 4 「変更等の別」は、法第48条第1項に規定する変更、指定、廃止、決定、解除又は指定の取消しを記載する。
- 5 「変更等する部分の面積」は、事業区分欄の事業の実施により変更等される面積を記載する。

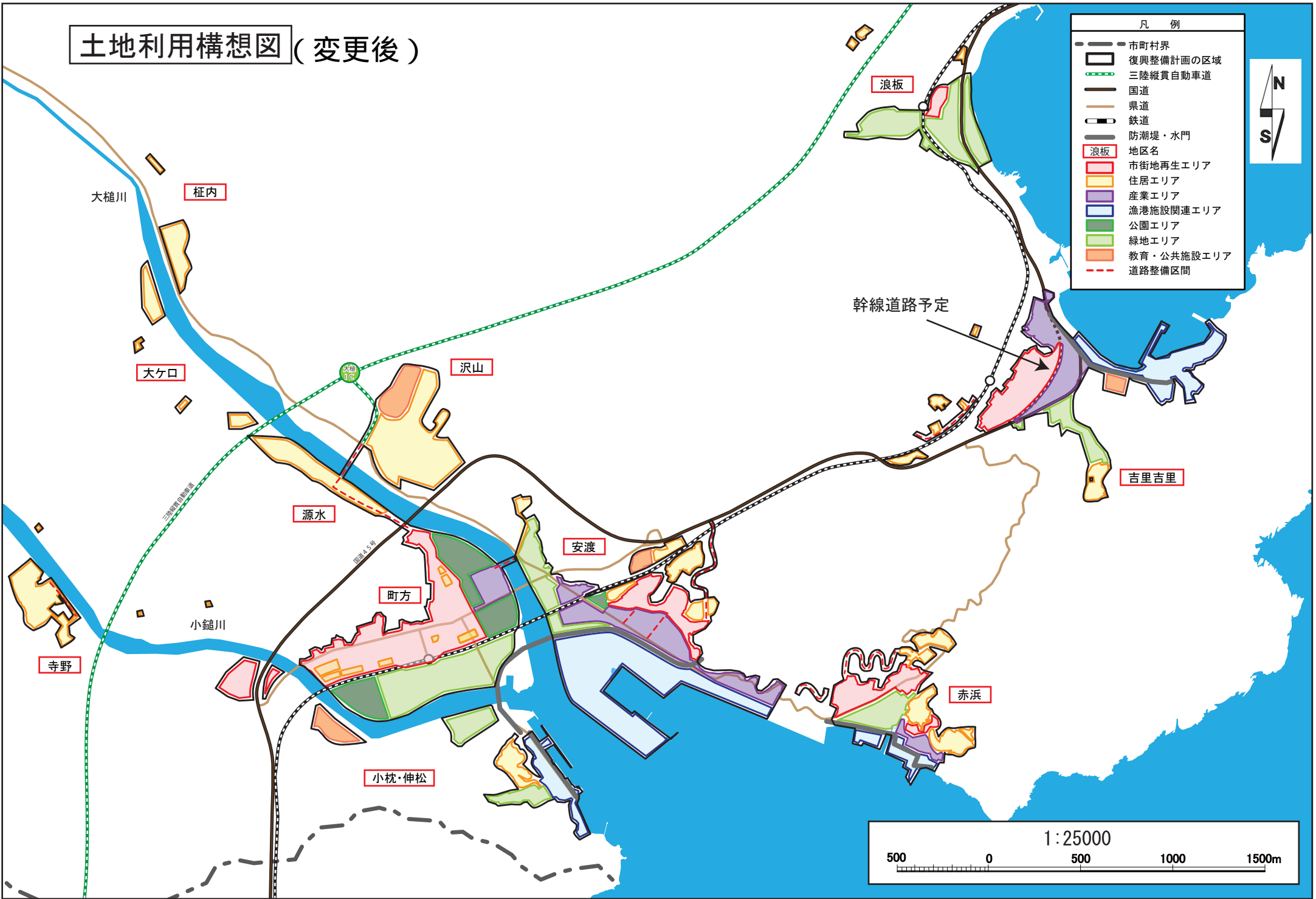


4-② 復興整備事業に関する許認可等に係る事項（法第49条及び第50条関係）

整理 番号	事業区分	図面 記号	農地法 (大臣許可)	都市計画法			農地法 (知事許可)	農振法	森林法		自然公園 法	漁港漁場 整備法	港湾法
			第4条第1項・第5条第1項の農地転用許可	第29条第1項・第2項の開発許可	第43条第1項の建築許可	第59条第1項から第4項までの都市計画事業の認可等	第4条第1項・第5条第1項の農地転用許可	第15条の2の開発許可	第10条の2第1項の開発許可	第34条第1項・第2項の許可	第20条第3項の許可・第33条第1項の届出	法第39条第1項の許可	第37条第1項の許可等
1	集団移転促進事業	(4)-A	○										
2	集団移転促進事業	(4)-C	○										
3	集団移転促進事業	(4)-D	○										
4	集団移転促進事業	(4)-E	○										
5	集団移転促進事業	(4)-F	○										

- (注) 1 本様式は、法第49条第1項の土地利用方針を記載しようとするとき又は復興整備事業に係る許認可等を得ようとするときに記載する。  
 2 復興整備事業の地区ごとに、当該事業に係る許認可等に関する事項の該当欄に「○」をするとともに、各許認可等に係る事項の様式を添付する。  
 3 「農地法（大臣許可）」は、上段には法第49条第1項の土地利用方針を記載しようとするときに「○」をする。また、下段には法第50条第1項の復興整備事業に関する事項を記載しようとするときに「○」をする。この際、農林水産大臣が定める書類（様式第9）を当該復興整備事業に関する事項を記載した復興整備計画の公表の日の前日までに、農林水産大臣に提出する。

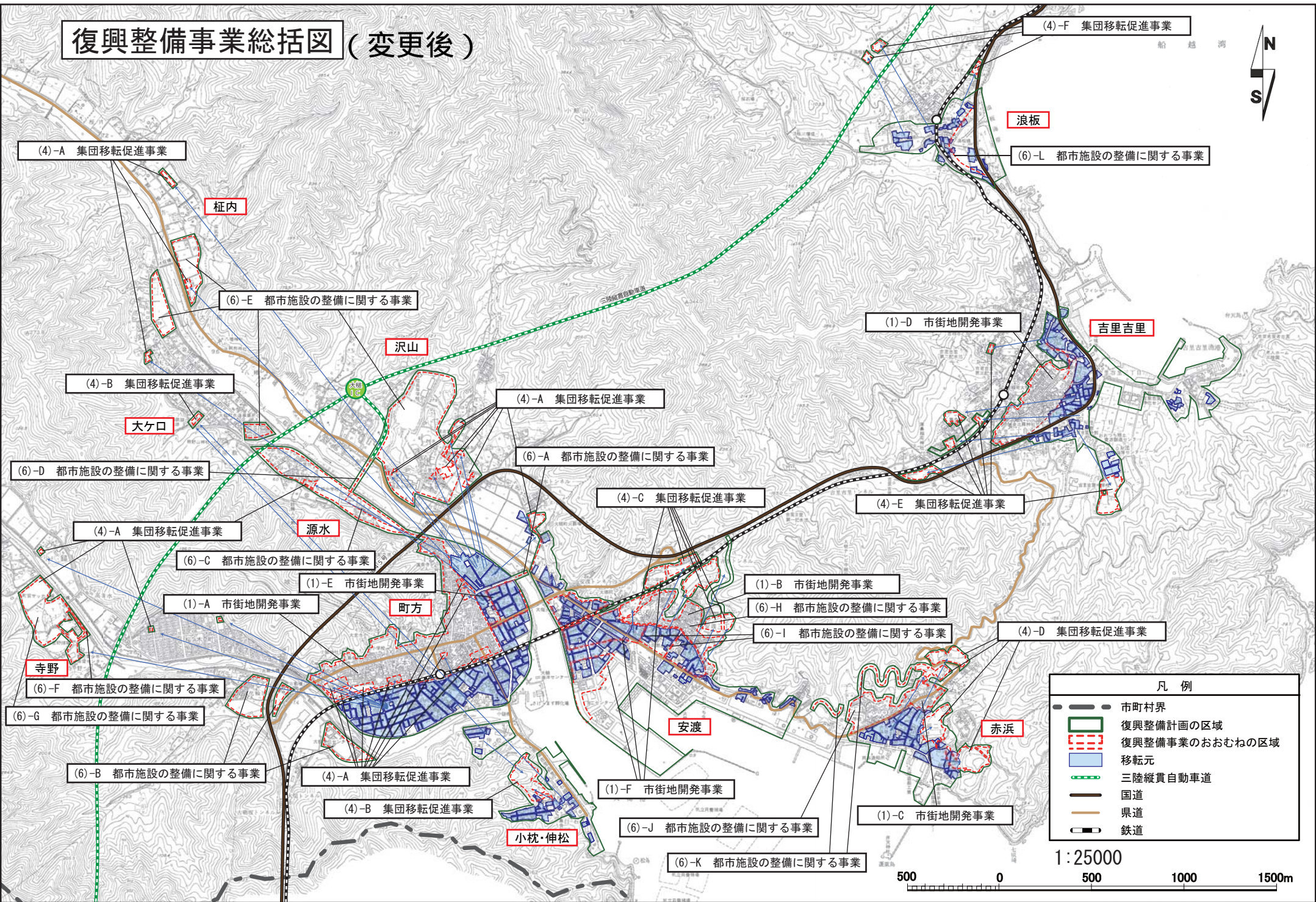
# 土地利用構想図 (変更後)



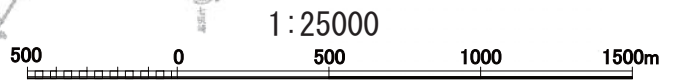
# 土地利用構想図 (変更前)



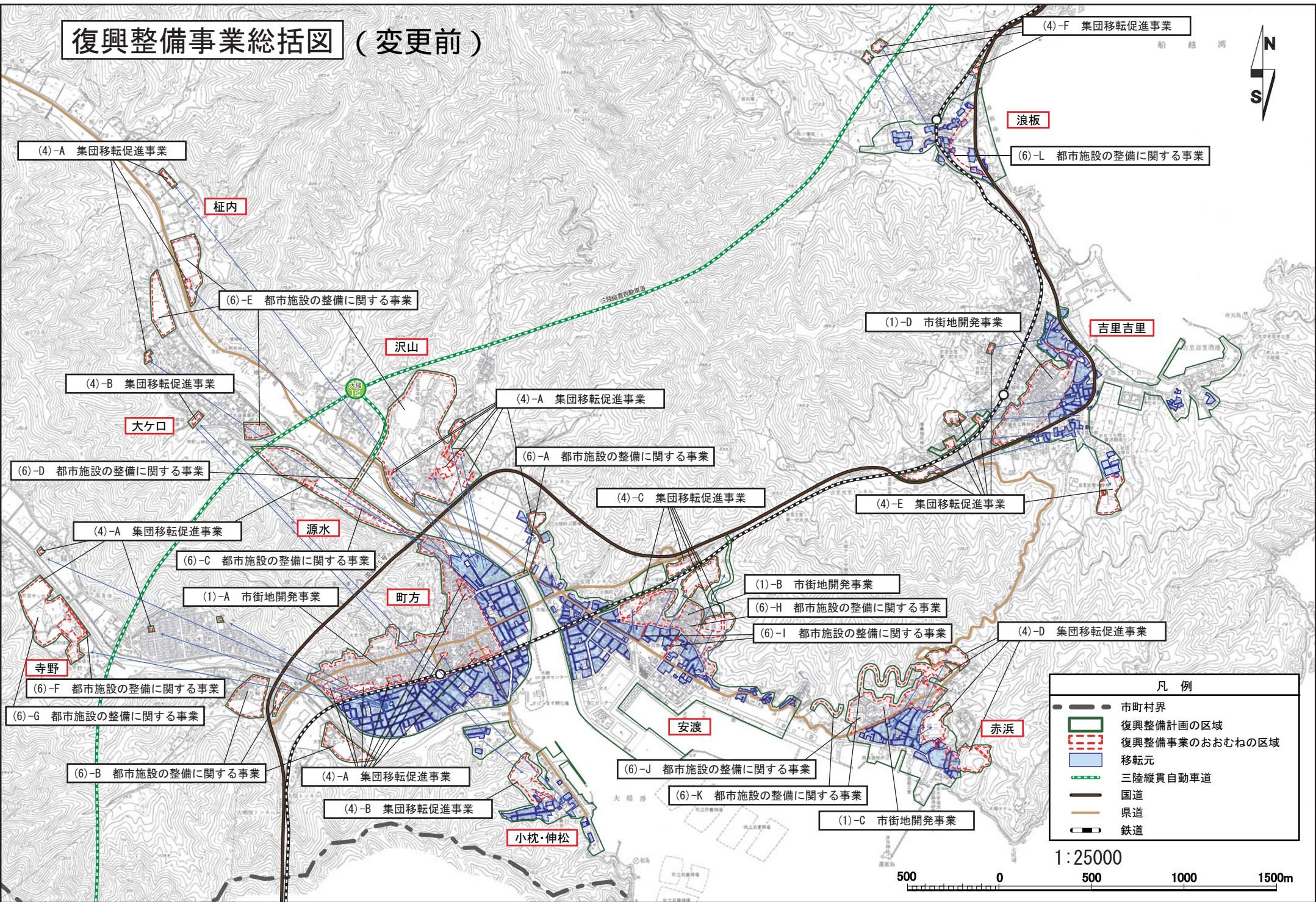
# 復興整備事業総括図 (変更後)



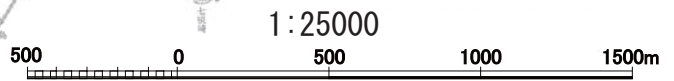
凡例	
	市町村界
	復興整備計画の区域
	復興整備事業のおおむねの区域
	移転元
	三陸縦貫自動車道
	国道
	県道
	鉄道



# 復興整備事業総括図 (変更前)



凡例	
	市町村界
	復興整備計画の区域
	復興整備事業のおおむねの区域
	移転元
	三陸縦貫自動車道
	国道
	県道
	鉄道



## 変更地域別概要

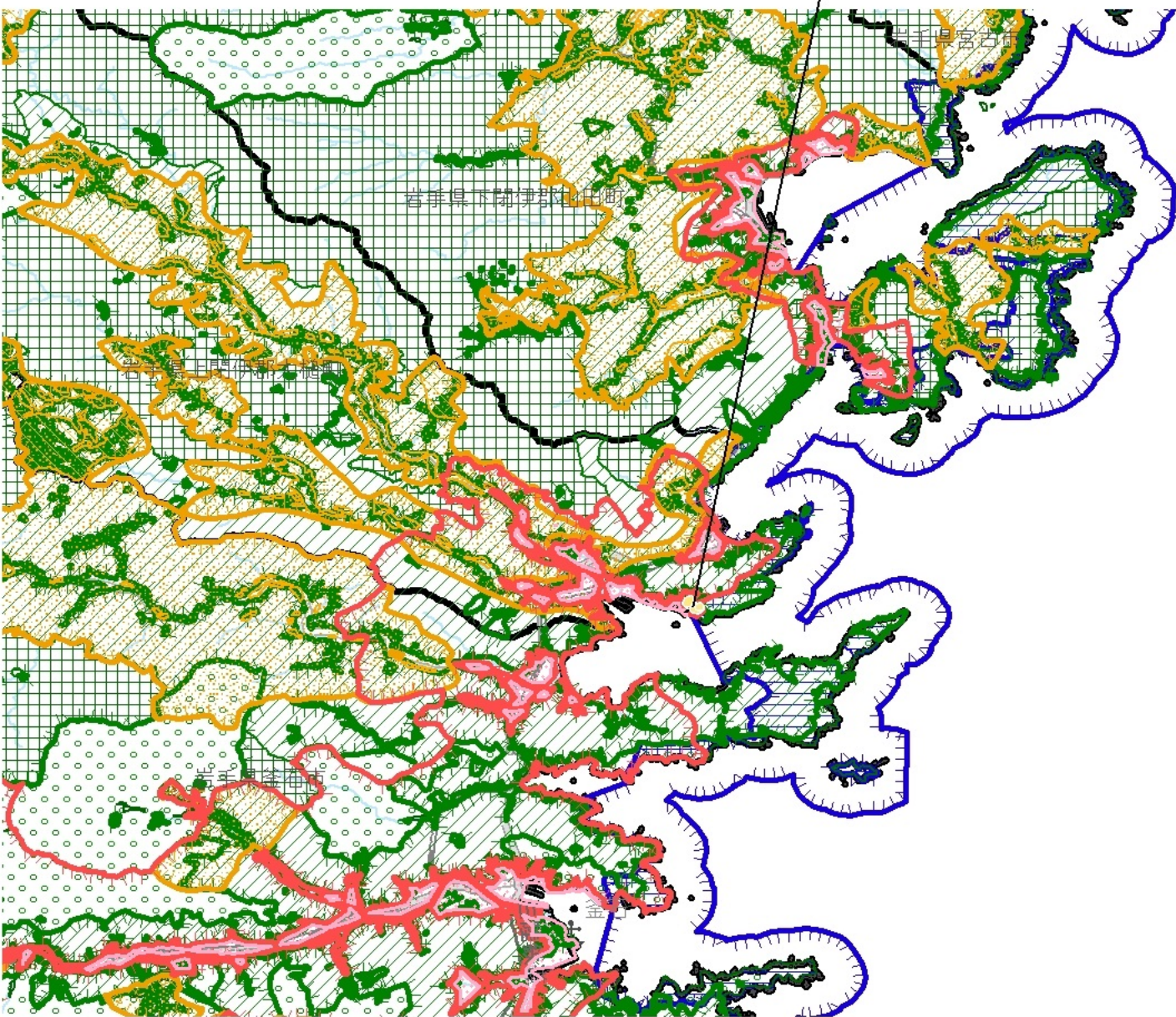
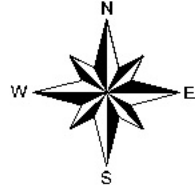
整理番号	変更地域名 (図面番号)	関係 市町村名	変更する面積		変更部分の重複状況(ha)					変更部分の 地目現況 (ha)	変更を必要とする理由 (地域設定に伴う土地利用 に関する基本的事項)	関連する 個別規制法 の措置 (予定)	個別規制法の調整状況	
			拡大面積 (ha)	縮小面積 (ha)	他地域との重複		細区分の 指定状況	白地地 域の増 減	変更部分の 地目現況 (ha)					
					名称	面積			名称					面積
1	大槌森林地域 (14-9)	大槌町 (赤浜地 区)		4	都	2	用途	0.16	2	森林	4	防災集団移転促進事業による住宅団地の整備に伴い、森林でなくなる見込みであり、森林としての利用・保全を図る必要がないため。	大槌・気仙川地 域森林計画の変 更	
合 計			0	4										

### 【記載上の注意事項】

- 「整理番号」欄は、変更地域ごとに付し、必要に応じて枝番を使用する。
- 「変更地域名」欄には、変更部分の通称(市町村名)の五地域区名(例:〇〇都市地域)を記載する。また、対応する土地利用基本計画図の図面番号を括弧書きで併せて記載する。
- 「変更する面積」、「変更部分の重複状況」、「変更部分の地目現況」欄の面積には、整数値を記載する。
- 「変更部分の重複状況」の「他地域との重複」欄には、拡大の場合は新たに重複することとなる他地域の名称と面積、縮小の場合は変更前において重複していた他地域の名称と面積を記載する。なお、名称の記載する際、都市地域は「都」と、農業地域は「農」と、森林地域は「森」と、自然公園地域は「公」と、自然環境保全地域は「保」という略称を用いる。
- 「変更部分の重複状況」の「細区分の指定状況」欄には、上記4)と同様の考え方で個別規制法の各地域・区域の種類と面積を記載する。その際、市街化区域は「市街」と、市街化調整区域は「調整」と、その他都市計画区域における用途地域は「用途」と、農用地区域は「農用」と、国有林は「国林」と、地域森林計画対象民有林は「民林」と、保安林は「保安」と、特別地域は「公特」と、特別保護地区は「保護」と、原生自然環境保全地域は「原生」と、特別地区は「保特」と記載する。
- 「白地地域の増減」欄には、変更によって減少又は増加することとなる白地地域の面積を記載すること。なお、白地地域が減少する場合は、数字の前に△を付すこと。
- 「変更部分の地目現況」欄は、該当する現況を農用地、森林、原野、水面・河川・水路(河川等)、道路、宅地、その他に分類して記載する。
- 「変更を必要とする理由」欄には、人口、産業、交通、自然条件等により地域の特徴を明らかにしつつ、土地利用又は土地取引の動向からみた必要性について記載する。また、細区分の設定の考え方、関連する事業計画等を明らかにしつつ、当該地域の土地利用(開発、整備、保全)の基本的方向に関する事項を括弧書きで併せて記載する。なお、新たに複数の地域区分を重複させる場合には、その必要性についても記載する。(例:開発を抑制するために〇〇法の〇〇区域も指定する)
- 「関連する個別規制法の措置(予定)」には、個別規制法に基づく地域・区域(細区分を含む)の指定(変更及び廃止を含む)の予定を記載する。
- 「個別規制法の調整状況」とは、法令や通知で国の関係地方支分部局との間で調整を行うこととされている場合における、都道府県(個別規制法担当部局)と当該地方支分部局(個別規制法担当部局)との調整を指す。なお、本欄には、①どの地方支分部局(個別規制法担当部局)と、②いつどのような方法で接触をし、③いつどのような反応を得られたかを記載すること。(例:〇〇農政局〇〇課に〇月〇日文書にて照会。〇月〇日時点未回答。〇月〇日口頭で了解の旨連絡受け。)

# 変更位置図1 (基本計画図14-9)

## 1 大槌森林地域(縮)(赤浜地区)

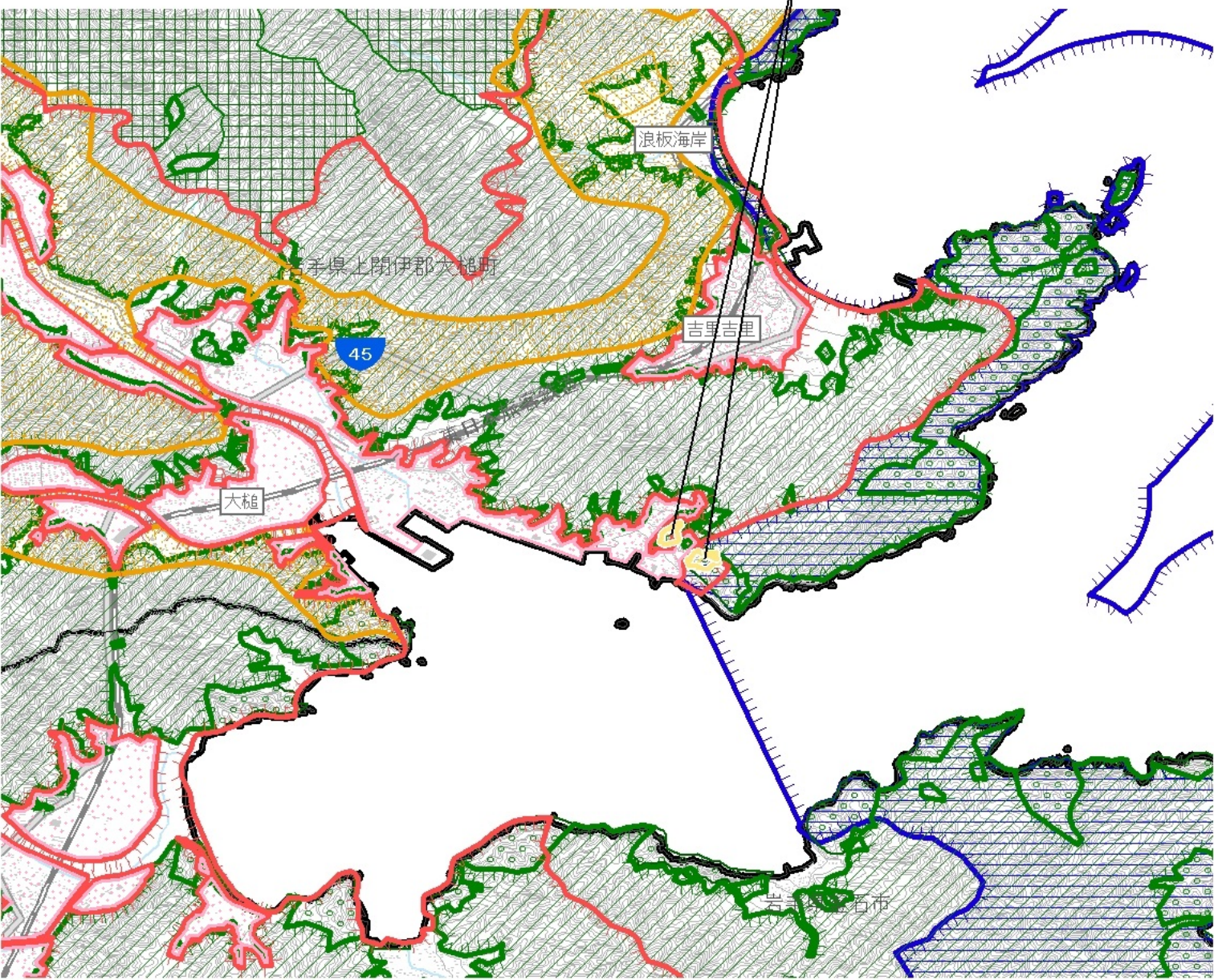
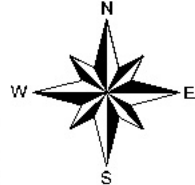


- 拡大(面)
- 縮小(面)
- 都市地域
- 市街化区域
- 市街化調整区域
- その他の用途地域
- 農業地域
- 農用地区域
- 森林地域
- 国有林
- 地域森林計画対象民有林
- 保安林
- 自然公園地域
- 特別地域
- 特別保護地区
- 自然保全地域
- 原生自然環境保全地域
- 特別地区
- 行政区画
- 都道府県界
- 都市・東京都の区界
- 町村・指定都市の区界
- 不明
- ✈ 空港
- ⚓ 港湾
- 新幹線
- JR在来線
- その他鉄道
- 高速道路
- 一般国道
- 主要地方道
- 河川
- 湖沼
- 海岸線
- ▬ 岩手県行政界
- ▬ 青森県行政界
- ▬ 宮城県行政界
- ▬ 秋田県行政界
- ▬ 山形県行政界

(S=1:200,000)

# 変更区域図1 (基本計画図14-9)

## 1 大槌森林地域(縮)(赤浜地区)



- 拡大(面)
- 縮小(面)
- 都市地域
- 市街化区域
- 市街化調整区域
- その他の用途地域
- 農業地域
- 農用地区域
- 森林地域
- 国有林
- 地域森林計画対象民有林
- 保安林
- 自然公園地域
- 特別地域
- 特別保護地区
- 自然保全地域
- 原生自然環境保全地域
- 特別地区
- 行政区画
- 都道府県界
- 郡市・東京都の区界
- 町村・指定都市の区界
- 不明
- ✈ 空港
- ⚓ 港湾
- 駅名
- 新幹線
- JR在来線
- その他鉄道
- 高速道路
- 一般国道
- 主要地方道
- 河川
- 湖沼
- 建築物
- 等高線
- 海岸線
- 岩手県行政界
- 青森県行政界
- 宮城県行政界
- 秋田県行政界
- 山形県行政界

(S=1:50,000)



## 様式第5 法第 48 条第1項第6号関係(地域森林計画区域の変更関係)

森林法第5条第1項の規定によりたてられた  
地域森林計画の対象とする森林の区域の変更に関する事項

(注) 森林法の特例措置(地域森林計画区域の変更)を必要とする場合に記載すること。

復興整備計画に記載する事項

大槌・気仙川森林計画区

単位 ha

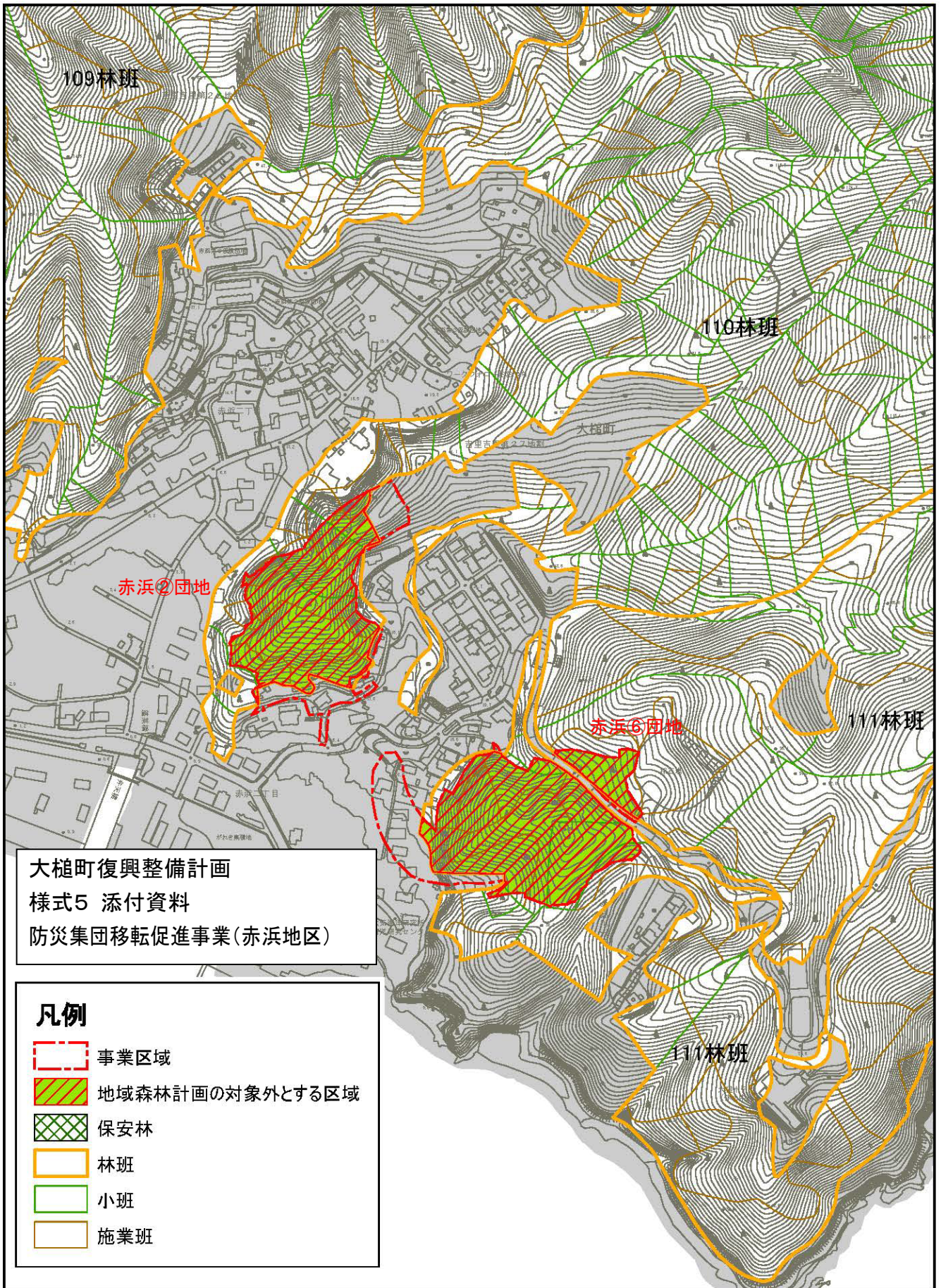
区 分	変更前森林面積	変更後森林面積	備 考
総 数	<u>1 0 2, 4 2 6 ha</u>	<u>1 0 2, 4 1 7 ha</u>	
市 町 村 別 内 訳	<u>大 船 渡 市</u>	<u>2 4, 6 9 2</u>	
	<u>陸 前 高 田 市</u>	<u>1 7, 0 6 2</u>	
	<u>住 田 町</u>	<u>2 2, 6 4 8</u>	
	<u>釜 石 市</u>	<u>2 9, 2 2 6</u>	
	<u>大 槌 町</u>	<u>8, 7 9 8</u>	<u>△ 3. 6 3 ha</u>

注 1 市町村別に記載するほか、森林計画区ごとに変更前と変更後の森林面積の合計を記載する。

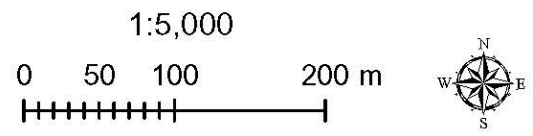
注 2 地域森林計画の対象とする森林の区域は森林計画図において表示する区域内の民有林とする旨記載する。

添付書類

「地域森林計画及び国有林の地域別の森林計画に関する事務の取扱いの運用について」(平成12年5月8日付け12林野計第188号林野庁長官通知)の附録第6号により作成した変更する区域に係る森林計画図。



様式5 添付資料 1  
変更する区域に係る森林計画図



## 様式第5-2 法第48条第1項第6号関係(地域森林計画区域の変更の協議関係)

### 森林法第5条第1項の規定によりたてられた 地域森林計画の対象とする森林の区域の変更に関する事項

(注) 森林法の特例措置(地域森林計画区域の変更)を必要とする場合に記載すること。

#### 協議に関する事項

単位 ha

所 在				復興整備事業の 名称及び種類	面 積	備 考
市町村	大字	字	地番			
大槌町	吉里吉 里第 27 地割	字向山	70-1 他	名称： <u>集団移転促進事業</u> ( <u>赤浜地区</u> ) 種類： <u>集団移転促進事業</u>	3.63ha	事業区域 4.50ha うち対象森林 3.63ha 開発行為 3.63ha ※面積は GIS 計測値

注1 地域森林計画区域の変更を要する土地の範囲は、復興整備事業の実施により、森林を他の用途に供する箇所又は他の用途の土地を森林とする箇所とする。

注2 所在欄は復興整備事業の実施区域ごとに地域森林計画区域の変更を行う箇所の所在を記載する。

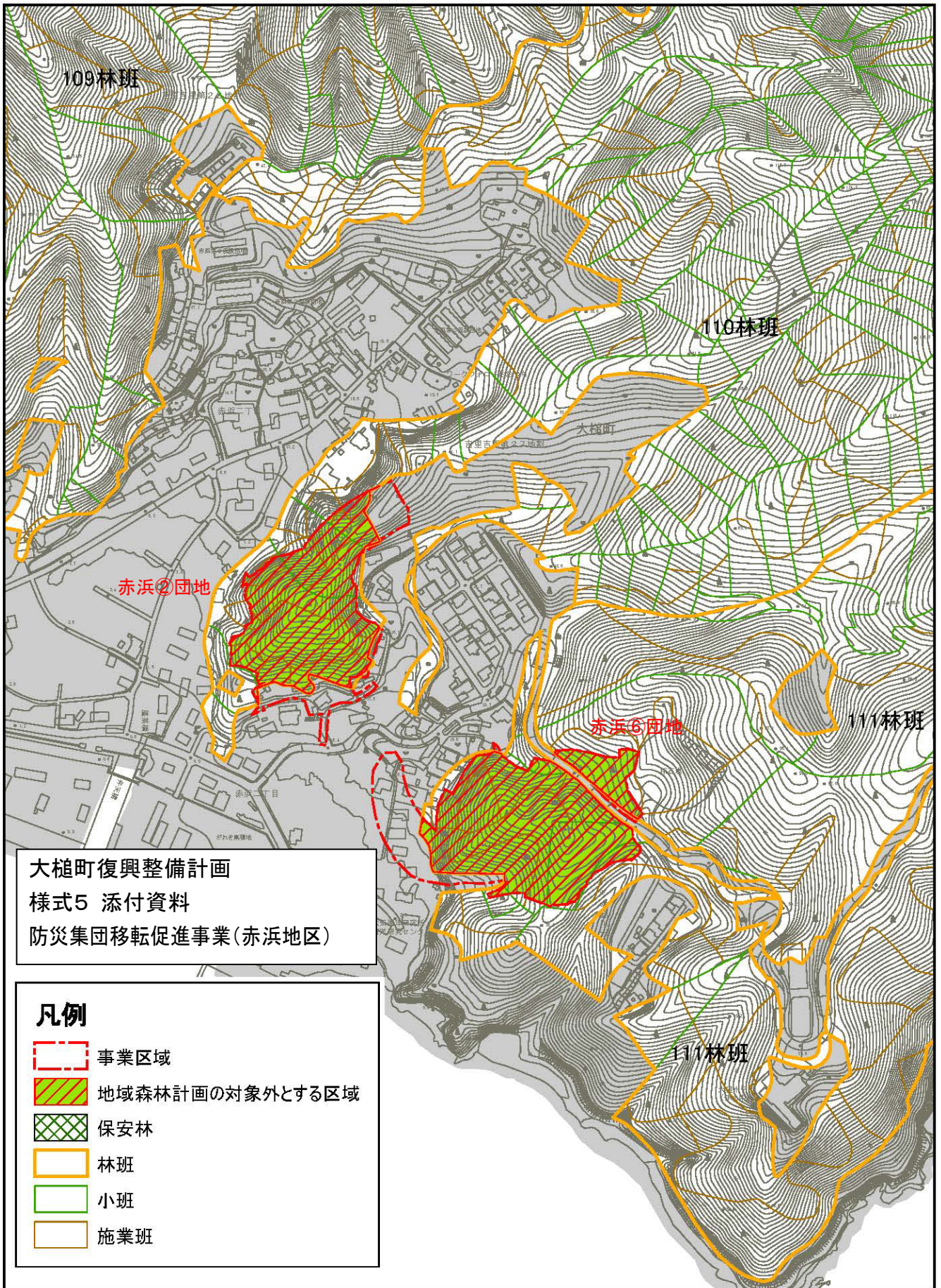
注3 復興整備事業の名称及び種類欄には実施する復興整備事業の名称及び種類を記載する。

注4 面積欄には、事業区域のうち、地域森林計画区域の変更を行う面積を記載する。なお、面積は、小数第2位まで記載し、第3位以下を四捨五入すること。

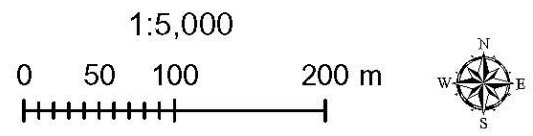
注5 備考欄には、事業区域のうち地域森林計画の対象とする森林の面積などその他必要な事項を記載する。

#### 添付書類

- 復興整備事業の名称及び種類を明示した実施区域及び地域森林計画区域の変更を要する土地の区域を記載した森林計画図
- 土地の形質の変更を行う区域、施設又は工作物の種類ごとの位置が記載された図面(森林を他の用途に供する場合に限る。)
- 復興整備事業に関する事項が記載された書面

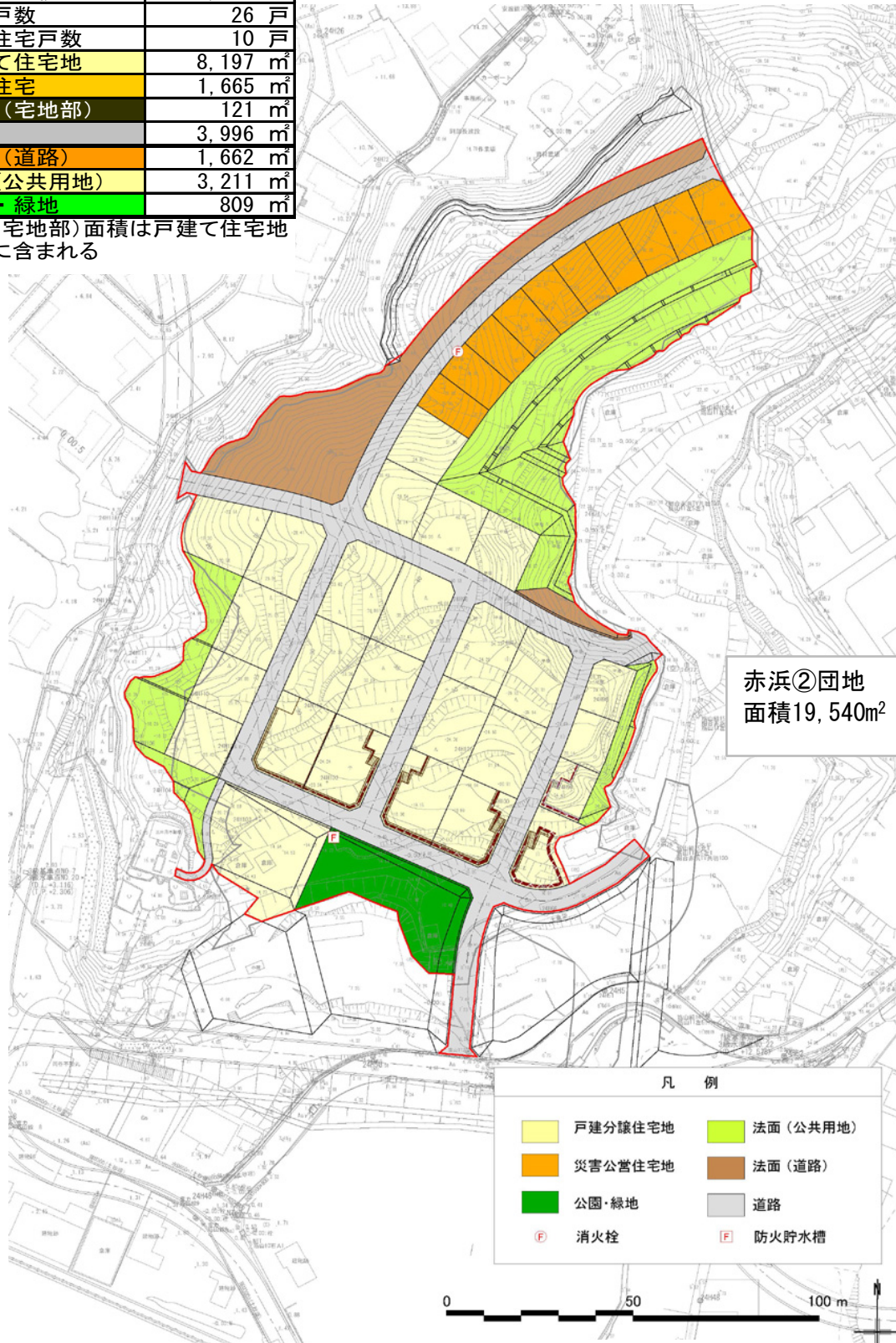


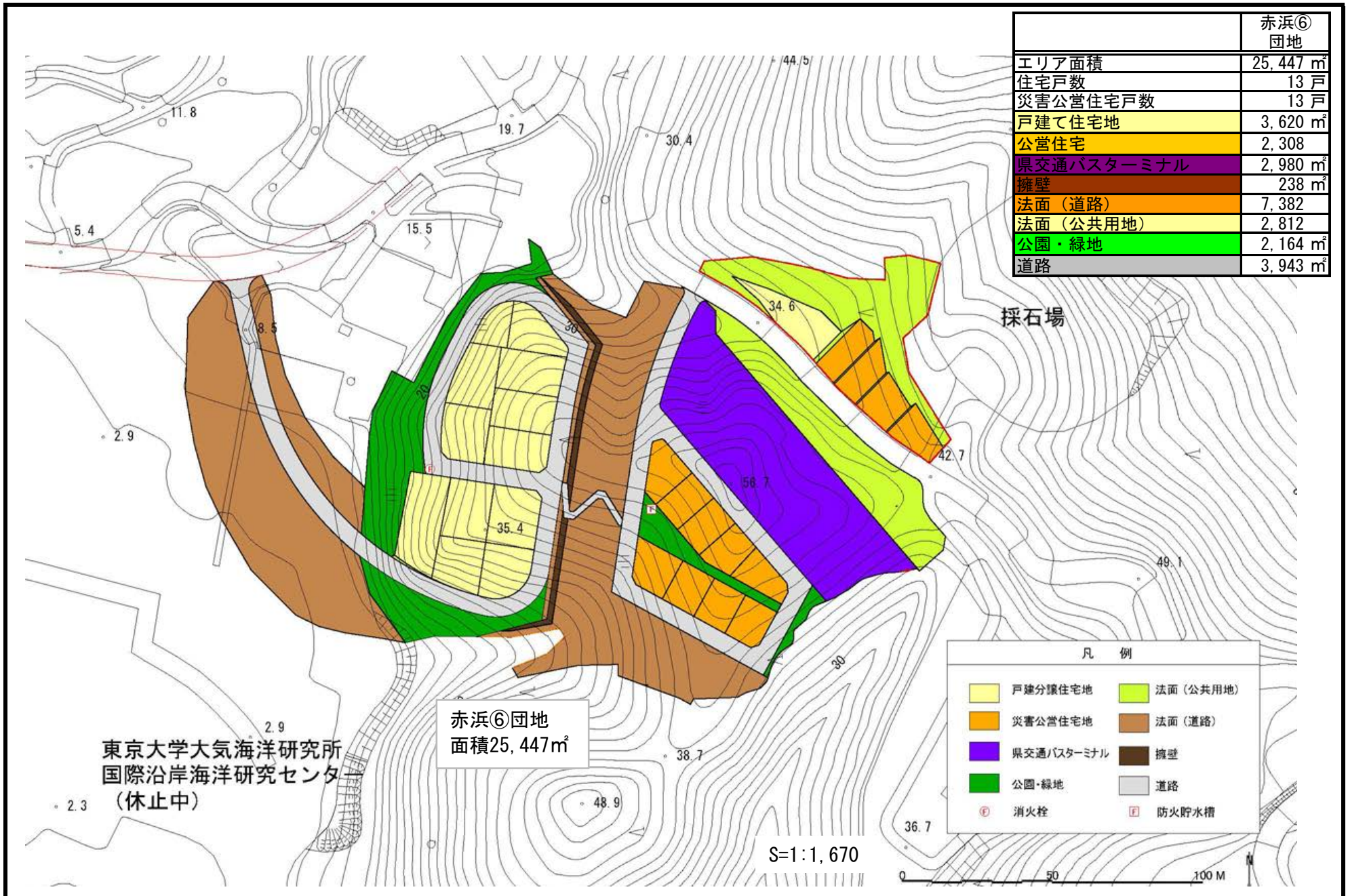
様式5-2 添付資料1  
変更する区域に係る森林計画図



区分	赤浜② 団地
エリア面積	19,540 m <sup>2</sup>
住宅戸数	26 戸
災害住宅戸数	10 戸
戸建て住宅地	8,197 m <sup>2</sup>
公営住宅	1,665 m <sup>2</sup>
擁壁(宅地部)	121 m <sup>2</sup>
道路	3,996 m <sup>2</sup>
法面(道路)	1,662 m <sup>2</sup>
法面(公共用地)	3,211 m <sup>2</sup>
公園・緑地	809 m <sup>2</sup>

擁壁(宅地部)面積は戸建て住宅地  
の中に含まれる





赤浜地区防災集団移転促進事業 赤浜⑥団地土地利用計画図 添付書類3

様式第5-2 添付書類4

復興整備事業に関する事項が記載された書面

赤浜地区防災集団移転促進事業 (4)-D

名 称		赤浜地区防災集団移転促進事業					
位 置		大槌町 赤浜					
面 積		6.6ha					
住宅施設、特定業務施設又は公益的施設及び公共施設の位置及び規模	住宅施設	2.3ha	備考	個人住宅：58戸 赤浜①団地 19戸 赤浜②団地 26戸 赤浜⑥団地 13戸			
	特定業務施設	—					
	公益的施設	0.7ha		公民館・避難ホール、バスターミナル			
	道路	種別	名称	幅員	面積	備考	
		住宅団地内道路等	区画道路等	6m	1,853m 2.6ha		
		幅員 6.0mの団地内道路を配置する。					
		種別	名称	面積	備考		
		広場	公園、緑地	0.3ha			
	公園及び緑地	住環境の保全とコミュニティー形成に配慮して公園を配置する。 地区周辺部に森林を保全するとともに、法面緑化により緑地として整備する。					
		その他の公共施設	下水道 ①雨水：大槌町公共下水道に接続する。 ②汚水：大槌町公共下水道に接続する。 上水道 大槌町上水道により区域全体に給水する。 その他（法面ほか） 0.7ha				
小計	3.6ha						
「区域、住宅施設、特定業務施設又は公益的施設及び公共施設の位置は計画図表示通り」							
理由 本地区の低地部には防潮堤を復旧する計画であるが、今回と同じ規模の津波が襲った場合には防潮堤を越流し被災する事が津波シミュレーション結果から想定され、災害危険区域にも指定された。したがって、この浸水区域は住民の居住に適当でないと認められるため、地区内住民の移転を行うものである							
【周辺地域への影響及び生活への配慮等】 沈砂地を設けるなど、工事中の土砂流出の防止に配慮する計画とした。							